



現代教育研究所

ISSUE : 第二回 現代教育研究所フォーラム

新年度に向けて



押谷 由夫 Yoshio Oshitani

子どもたちと社会の未来を拓く 教育の理論的・実践的研究を

学校教育は、子どもたちが幸せな人生を送れるように、そしてみんなで協力してよりよい社会を創っていくための基礎力を身につけることです。

しかし、今日の変化の激しい社会においては、未来予測が困難になります。そして不安が募ります。それでは、自分の未来も社会の未来も拓くことはできません。

どうすればいいのでしょうか。大きく二つの方法があります。

一つは、歴史に学ぶことです。そのことによって自分の生き方の基盤を確立することができます。

もう一つは、様々な課題に対応できる資質・能力を培うことです。そのことによって未曾有の変化にも正面から対峙することができます。

現代教育研究所は、この二つに重点を置きながら、子どもたちと社会の未来を拓く教育の理論的・実践的研究を行います。今年度いよいよ本格的に動き出します。

関心をお持ちの皆様方の積極的参画をお願いいたします。

ホームページ開設

現代教育研究所のホームページを開設いたしました。

かねてより作成してまいりました現代教育研究所のホームページが今年2月に開設されました。トップページの下方にはグループごとの研究報告ページがございます。グループごとの研究内容や研究に添ったコンテンツを公開していく予定です。

英語教育研究グループで作成した教科書に対応した動画と音声のコンテンツの公開、トルストイ教育研究グループのトルストイ勉強会の報告を公開していく予定です。

また、研究所発足から使用しておりましたブログも、イベントごとに随時更新していく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

ホームページ <http://iome.jp/> ブログ <http://content.swu.ac.jp/kyoikuken-blog/>

フォーラムレポート REPORT OF FORUM

第二回現代教育研究所フォーラムが2月27日(土)に本部館大会議室で開催されました。テーマを『キックオフ 「特別の教科 道徳」―「特別の教科道徳」をいかに具体化するか―』とし、道徳教育の抜本的改善・充実を図り、自らの人生と社会の未来を切り拓いていける子どもたちを育てようという趣旨で行われました。

昨年度の開設記念フォーラムの来場者を30名上回る、約170名の方に来場して頂き、成功裡に終了いたしました。

内容は以下の通りです。

講演「日本の学校教育の根底に息づいているもの」

・寺崎昌男(東京大学、立教大学、桜美林大学名誉教授)

近代の学校教育の歩みを振り返り、現代の課題を指摘されました。例えば京都の番組小学校に見られるように、日本には地域で学校を設け支えるという伝統があること、明治前期には官立と私立の多様な教育機関が並立していたこと、そして不登校は子どもの問題という以上に学校のあり方の問題であることなど、歴史と現代を往復する、多岐にわたった非常に刺激的な内容でした。



実践事例発表1「個性の伸長を目指した総合単元的な道徳学習プログラムの開発」

・齋藤道子(東京都文京区立大塚小学校副校長)

実践事例発表2「系統的指導を踏まえた「特別の教科 道徳」年間指導計画の工夫」

・船越一英(埼玉県和光市立白子小学校主幹教諭)

齋藤先生は「個性の伸長」を図る教育を、「道徳」と「総合的な学習の時間」を結合したカリキュラムとして構成し、自分らしさを知った上で、どのような進路を選択するか、どのように主体的に社会と関わっていくかを考える取り組みを報告されました。

船越先生は、一年間を通した系統的な計画により指導の積み重ねが行われ、子どもが道徳で扱う課題を自ら考えるようになることを、ご自身の実践を踏まえて指摘されました。

シンポジウム「「特別の教科 道徳」にいかに取り組みばよいのか ―理念、指導方法、評価を中心に―」

- ・西野真由美(国立教育政策研究所総括研究官)
- ・貝塚茂樹(武蔵野大学大学院教授)
- ・関根明伸(国士舘大学准教授)

3人のシンポジストから、韓国やその他の外国での状況や歴史的に見た課題が報告されました。道徳教育は、どの国でもどの時代でも、その重要性は語られながら実践は難しいということが改めて示されました。フロアからの積極的な発言もあり、参加された方がそれぞれの場で考えて行く貴重な素材になったのではないかと思います。

フォーラムの後は懇親会が開かれ、ご講演いただいた先生方やシンポジストのみならず、所員・研究員、参加者が交流のひとときを持ちました。



研究グループ報告 GROUP ACTIVITY REPORT



理科教育
研究グループ

夏の京都で行われた日本理科教育学会では研究発表を行い、全国的な理科教育研究の動向に学び交流を深めました。特に、初等部の先生方との共同的な授業研究は学内連携として重要な取り組みでした。これからは、教員養成・採用・研修といった一連のサイクルに着目しつつ、日本の科学教育の推進といった大きな視点から研究を進めていきたいです。



道徳教育
研究グループ

平成30年4月から、道徳の時間は、「特別の教科 道徳」として小学校段階から全面実施されることとなりました。「特別の教科 道徳」を要に道徳教育を学校教育の中核として機能するようにし、学校を真の人間形成の場にしようとするのです。そのことを踏まえて、研究のテーマを、「特別の教科 道徳」を要に学校を真の人間教育の場にするための枠組みの構築」とし、本年度は、まずアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に焦点をあて、研究を行いました。



英語教育
研究グループ

6月27日(土)に学習者の動機を高める英語指導をテーマとして「昭和女子大学 現代教育研究所 英語教育セミナー2015」を開催し、また3月10日(木)に大学の授業に於いて高等学校までの学びを総合的に復習できる『Mini-Activities in University Non-Major English Classes』を発行しました。加えて、所員全員で研究所紀要に研究ノートとして『初級英語教材に用いられる語彙・単語連鎖に関する基礎調査』を発表しました。



乳幼児教育
研究グループ

昨年、日本乳幼児教育学会第25回大会が、本学の初等教育学科を中心に開催されることに合わせて、協同で「グローバルな視点からの乳幼児教育の構成」というテーマに取り組みました。乳幼児公教育施設の「こども園」化への急速な進行。新子育て支援制度への取り組み。待機児童問題の解消。こうした課題に、正面から取り組み議論を交わしました。乳幼児教育のメンバーも中心的存在として議論に加わり、新たな課題もみつめました。



表現教育
研究グループ

本年度は、首都圏における表現教育の拠点と活動状況を調査し、情報を収集することに焦点化し、次の2つの活動を行いました。芸術大学の開設をきっかけとしてアートによる地域文化の活性を模索する取手の取り組みの取材と、都内で開かれたドラマワークの実践教育活動参加による情報収集です。



教育課題
研究グループ

教育課題研究グループの中心的な研究課題を「21世紀型能力をいかに捉え、育むか?」に決定しました。この問いに学習指導、生活指導・生徒指導、組織開発の観点から切り込むために、平成27年度はグループメンバーそれぞれの研究について相互理解を図ってきました。本格的な研究の始動へと向かっているところです。



トルストイ教育
研究グループ

80年館地下倉庫のトルストイ関係資料の現状確認を行いました。データの確認補充が終了した89件のデータを、学内Webデータベース(デジエ)に公開しました。また、『トルストイのアズブカ』を読むトルストイ勉強会を計7回開催しました。毎回、所員、本学元教職員、他大教員、他大学生等、多彩なメンバーが参加しています。



私学教育
研究グループ

昨年度4月の顔合わせ以来、研究員2名と所員3名で1~2ヶ月に一度の勉強会を持ってきました。7月には外部講師を招いて「私学の現状と課題」について研究会を開き、2月には、研究員と学生との座談会を実施しました。この一年間は動走段階でしたが、私学についての課題が次第に見えてきました。

研究グループ活動予定 GROUP ACTIVITY PLANS

今年度から現代教育研究所の2部門8研究グループに、新しく情報メディア教育研究グループができました。合計9つの研究グループとなり、ますます活発な研究活動が行われることを期待します。

各研究グループの次年度の活動予定、目標は以下の通りです。

現代教育研究部門	理科教育研究グループ	2016年度も、①教材開発および授業実践、②研究発表、③教育支援、④研修の4つの活動を行います。 ①では、八丈島の自然を生かした教材開発や、大田区教育委員会と共に行うコンテンツ開発と「おおたサイエンススクール」の支援を行います。 ②では、8/6・8/7に信州大学で行われる日本理科教育学会全国大会で口頭発表を行います。また、書籍や教育雑誌等で研究成果の発表を行います。③では、昭和女子大学附属昭和小学校の授業研究の支援や、小学校教諭を対象とした研修会の支援、児童を対象とした実験教室の実施などを行います。④研修では、各地で開催される理科教育に関わる先進的な取り組みについての視察を行います。
	英語教育研究グループ	英語教育グループでは、2016年度の活動内容として、次の3点を計画しています。 まずは、2015年度に着手した「初級英語教材に用いられる語彙・単語連鎖に関する研究」を更に進めて、既に研究ノートとしてまとめた内容をもとに分析を深め、論文として発表します。次に、2015年度に引き続き「英語教育セミナー2016」を開催し、英語教育に関する情報提供を広く行います。最後に、こちらも2015年度に引き続き大学生対象のMini-Activity集のvol.2を制作すると共に、今年度はその他のレベルの学習者対象のMini-Activity集も制作します。以上3つの計画に取り組んでいきます。
	道徳教育研究グループ	昨年度と同様に「特別の教科 道徳」の授業構想について、学校現場と協力しながら研究を深めたいと考えます。そしてさらにスクールマネジメントとカリキュラムマネジメントの視点から、道徳教育の充実策について研究し提案を行います。また、韓国、中国、アメリカなどでの道徳教育の取り組みについても研究を深めていきます。
	乳幼児教育研究グループ	今年度は、まず、課題を共有化し、一つ一つに深く取り組んでいくことにしました。今、まさに、教育の基礎に当たる乳幼児教育の在り方、存在感も一層問われることとなります。本分科会では、外にも目を向け、各所で活躍している研究グループとも連携しながら、こうした問題に正面から取り組んでいきます。
	表現教育研究グループ	表現教育の領域は、アート、ドラマ、音楽音響、ICT等多岐に亘るが、次年度も引き続き、それらの表現教育の拠点となっている施設の活動を調査し、情報収集のためのネットワークの構築を進めていきます。調査対象は首都圏に留まらず、地域と密接な結びつきをもつ活動を主な調査対象として、表現教育の実践情報を収集するとともに、現地取材も含めて具体的な活動状況の把握を進め、報告します。
	教育課題研究グループ	昨年度に引き続き、「21世紀型能力をいかに捉え、育むか」を研究課題に据え、特に学校現場と協働した研究を展開してまいります。目指すところは「日本型カリキュラム実践」における卓越した実践知の発掘・創造への着手です。 日本の学校教育は、深刻化・複雑化する問題状況に飲み込まれ、自信を失っています。他国に目を向けても理想的な解決策を手にはできないとは限りません。「日本には日本が蓄積してきた教育財産がある」という考え方にに基づき、私たちは学校現場でGood Practices(卓越した実践)が生み出される過程に注目しながら、その分析・創造を通じて、学校教育のリ・デザインに貢献していきます。
建学理念研究部門	情報メディア教育研究グループ	高度情報社会参画の基盤となるメディア情報リテラシー(MIL, Media and Information Literacy)を中心に研究していきます。本グループは、本年度から開始のため、試行段階として、以下の計画を実施予定です。まず、所員が担当する講義で、「メディア情報リテラシー」の学習方法を提供し、学習過程と成果を可視化していきます。次に、本グループと連携可能なネットワーク(教員・研究員・メディア関係者)の構築を目指します。そして、本グループの実践的研究の意義と方向性を明確にしていきます。
	トルストイ教育研究グループ	昨年度に引き続き、80年館地下倉庫のトルストイ関係資料の現状確認とデータ整理を行います。80年館地下倉庫については、今年度中に目途をつけたいと思っています。また、『トルストイのアーズボカ』を読むトルストイ勉強会も引き続き行います。現代教育研究所所員・研究員、各附属校代表者にも勉強会の案内および報告を毎回メールで配信しているので、興味をお持ちの方は、ぜひ気軽に参加してください。トルストイ研究者不在の状況に変わりはないので、できる範囲のことを地道にやっています。
	私学教育研究グループ	今年度は勉強会を続けながら、私学に対して、教員の研修についての調査を行う予定です。公立学校の教員は法令により各種の研修が義務づけられていますが、私学教員の場合は基本的に各学校の判断によっています。私学にとって教師は財産だと言われながら、人材育成は十分ではありません。私学教員の育成についての現状を明らかにし、その上で提言を行いたいです。また昨年度実施した「研究員との座談会」も継続して実施します。他のグループにもご協力頂いて、幅広い内容のものにすることを考えています。

昨年度は年に1度のフォーラムも第2回となり、同時に紀要の発行、ホームページの開設など、年度末は駆け足で進んでまいりました。

今年度から所員・研究員の合計人数が40名となります。研究グループも増え、より多岐に渡った研究が期待できます。各グループの研究会の活発化と、研究員の講演会・座談会の回数を増やすことを目標にしながら、昨年度と同様フォーラムの開催と紀要の発行に尽力してまいります。

現代教育研究所

所在地：大学2号館東棟2T01B

開所時間：月・水・金 10:00～16:00

現代教育研究所
Institute of Modern Education